

平成30年度 佐賀県立唐津商業高等学校 学校評価結果

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>生徒一人ひとりの能力を伸ばし、ビジネスの知識と技術を習得させて地域や経済社会の発展に寄与する人材を育成するとともに、心豊かで心身ともにたくましい唐商生を醸成する。</p> <p>【学校経営ビジョン】</p> <p>(1) 生徒の学びの姿を通して、地域に有用で信頼されるビジネスの専門家づくりを進める。</p> <p>(2) 将来の職業人、社会人として仕事のできる生徒を育成する。</p> <p>(3) 教職員は質の高い指導力と熱意をもって指導にあたり、協働して教育活動に取り組む。</p> <p>(4) 次の目標を掲げて、人づくりと学校づくりに努める。</p> <p>①挑戦目標をもって授業と部活動に全力投球する。 -「燃える唐商生、唐商」づくり-</p> <p>②誠実ビジネスの知識と技術を習得し、実践力と倫理観を培う。 -「信頼される唐商生、唐商」づくり-</p> <p>③品格：学びの場に相応しい姿勢と礼節を心がけ、ルールやマナーを遵守し、人を思いやる心を持つ。 -「品格ある唐商生、唐商」づくり-</p>	<p><b>2 本年度の重点目標</b></p> <p>①授業と部活動に全力投球し、進路を実現する学力とたくましい心身を養う。</p> <p>②ICT活用教育を推進する。</p> <p>③地域や実務と関わるビジネスの学習と活動を進めて実践力を育成するとともに、地域貢献を果たす。</p> <p>④キャリア教育で自己や職業理解を進めるとともに、体験的学習で自らの将来を考えさせる。</p> <p>⑤「心の教育」と人権教育・研修を充実させて、いじめと体罰のない学校をつくる。</p> <p>⑥韓国観光情報科学高校と交流し、国際交流教育を進める。</p> <p>⑦唐商生としての学びの形(挨拶や態度、言葉遣い、服装)を整え、「唐商生のあり方」を指導する。</p> <p>⑧広部活動に力を入れ、本校の教育活動についての地域の理解を深める。</p> <p>⑨指導や取り組みについて全職員の共通理解を図るとともに、各主任の主導で効果的な指導を行う。</p> <p>⑩主権者教育活動に取り組み、主権者として必要な自覚と問題意識を持たせる。</p> <p>⑪業務改善・教職員の働き方改革の推進。</p>
--	---

- A: ほぼ達成できた。
- B: 概ね達成できた。
- C: やや不十分である。
- D: 不十分である。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①授業と部活動に全力投球し、進路を実現する学力とたくましい心身を養う。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と理由 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	基礎学力(文字力、英単語、文法等、数学)の向上、定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教科について家庭学習の定着を目指す。</li> <li>実用英語検定、全商英語検定において、昨年度以上の受検者、合格者を目指す。</li> <li>進路に関わる数学力の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な課題学習、学習用端末を活用した文字力、百人一首等の学習指導を行う。</li> <li>長期休業明けの課題テストの実施。</li> <li>漢字力テスト、英単語テストの定期的な実施。</li> <li>授業や個人指導を通して検定取得を目指した指導を行う。</li> </ul>	A	漢字や英単語テストの実施については、生徒が集中して取り組めるよう、検定試験日などの実施時期を調整した。クラスごとに意識を取り組んでいる。課題計画表を作成し、検定試験時期には教科間で課題量の調整を行った。検定前の行事を調整し、特設に取り組みやすいう工夫した。	課題学習については、今後も課題計画表などで量や時期を調整し、しっかり取り組めるよう工夫する。漢字力・英語力については、今後も小テストを定期的に行い定着を図る。
	○部活動指導	部活動の活性化を推進する。 部活動を通して、心身ともにたくましい健全な生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の加入率100%を目指す。</li> <li>競技力の向上だけでなく、挨拶の徹底、ルールやマナーを遵守する心の育成、ひいては、施設・設備、部室、用具等を大切にすることを育てる。</li> <li>部活動を通して、人間形成を図るとともに、自己目標達成に向けた指導を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加入状況の確認・把握し、未加入者には担任と連携しながら加入への働きかけを随時行う。</li> <li>部室や施設設備の定期的な点検を行う。</li> <li>各部長との定期的な連絡会を行い、左記の要領を説明し理解させる。</li> </ul>	A	本校は「全員部活動」を推進しており、部活動を変えてみる生徒はいたものの、100%の加入率を達成することができた。各学期定期考査毎の部室検査を行い、部室使用マナーやゴミ等の持ち帰りの徹底により、部室内外や校内のゴミが減ってきた。部室の施設、鍵の管理等も徹底している。	来年度は全員部活動制の徹底(新入生を除く)を図り、生徒達が意欲的に部活動に取り組める環境作りと活性化を推進していくと考えている。部活動を通しての礼儀やマナー等の教育活動も更に真にあるものとして行っていきたい。
	●健康・体づくり	朝食摂取率の向上および自己管理能力の向上 健康に関する自己管理能力の育成 学習環境の整備を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食摂取率92%以上をめざし、生徒がバランスのとれた食生活をおくれるよう啓発する。</li> <li>感染症予防の指導充実により罹患率の減少、感染拡大防止を図る。</li> <li>視力・歯科に関して治療勧告者の受診率50%以上を目指す。</li> <li>清掃・ゴミ持ち帰り指導の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健だよりや食育だよりによる情報発信。</li> <li>「生活習慣アンケート」の結果に基づく実態把握および個人指導。</li> <li>気になる生徒の個別面談を行い状況把握に努める。</li> <li>個別指導の充実をはかる。</li> <li>日々の全校一斉清掃、毎月の掃除点検により美化意識の向上を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食摂取率は、「平日毎日食べる」「食べない日がない」と回答した生徒は、4月調査で91.3%、12月調査の結果で90.7%と90%をどちらも越えてはいるが、目標の92%は達成できなかった。食育だよりの発行や食育講演会などでの啓発、家庭の意識向上を図っていききたい。</li> <li>今年度は全国で麻疹・風しんの流行が見られたため、感染症予防への情報発信や予防接種率の確認を行った。健診後の受診率に関して、歯科:50.5%、視力:75.6%と昨年度よりも大きく向上した。学校での指導や家庭の協力が大きく向上する要因となったと考える。</li> <li>クラスでの呼びかけや定期的な掃除点検などにより校内の環境についても意識できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食摂取に関する情報発信や摂取を促すために指導を充実させる。</li> <li>家庭・個人への情報発信のために学校ホームページを活用し、たよりを小まめに掲載する。</li> <li>ゴミの持ち帰り、掃除点検を充実させる。</li> </ul>
○進路指導	就職の内定率向上 推薦入試合格率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝自習の時間を利用して基礎学力の定着をはかる。</li> <li>進路内定率100%を目指す。</li> <li>推薦入試合格率100%を目指す。</li> <li>小論文の指導力向上をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝自習の教材について学習用PCも活用し工夫する。</li> <li>夏季休業中の面接・小論文指導の充実をはかる。</li> <li>小論文講座への教員の参加をはかる。</li> <li>必要に応じて面談を行い、生徒の進路希望を把握する。</li> <li>適性検査や学力検査を活用し、生徒の能力・希望に応じて適切な指導を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝自習では学習用PCを用いるとともに、進路に応じて新聞・作文指導などを行った。</li> <li>小論文指導では国語科を初め、献身的な指導により大学への合格につながった。</li> <li>2学期の後半より、2年生全員と主事が面談を行い、進路把握に努めた。</li> <li>教務と連携し「学びの基礎診断」に向けて模試の実施時期・クラスを検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝自習でのPC教材の工夫を行う。</li> <li>小論文指導では、一部の教員に負担がかかるので、指導体制や職員の意識改革に努める。</li> <li>2年学年団との連携・情報交換をもとに密にして、2年次の進路指導の充実をはかる。</li> <li>適性検査や学力検査の結果を適切に生徒側へフィードバックする。</li> </ul>	
②ICT活用教育を推進する。							
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT活用ルールを守りつつ、学習用パソコンの活用を通じた教育活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の活用ルールへの周知徹底を目指す。</li> <li>10人以上の職員が学習用パソコン教材を自ら作成することを目指す。</li> <li>校内外の活動において学習用パソコンを用いた発表を年間6回以上実施することを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・職員に対してICT機器の活用ルールへの周知に努め、ルールの中での活用を呼び掛ける。</li> <li>学習用パソコンを活用した実践例を紹介し、各教科での積極的な活用を呼び掛ける。</li> <li>生徒が学習用パソコンを用いて発表資料の作成ができるように支援する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒への周知は継続的に進めたものの、生徒用パソコン及び備品の劣化が4件起きてしまった(うち2件はその後発生)。生徒のパソコンの取り扱い方についてさらに指導を徹底していく必要がある。</li> <li>教員によって活用頻度に差が出ている。活用の機会が少ない教員への支援が必要である。</li> <li>授業や校内外の行事でパワーポイント等を用いた発表が行われ、年間6回以上の実施目標を達成できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習用パソコンの取り扱いについてHRや集会を通じて継続的に確認を行う。</li> <li>ICT機器の活用機会が少ない教員に対する研修を実施し、活用を促す。</li> </ul>

③地域や実務と関わるビジネスの学習と活動を進めて実践力を育成するとともに、地域貢献を果たす。			
教育活動	●学力向上 (資格取得)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般的に関心、意欲、態度、思考、判断、知識、理解の観点から総合的に評価する。</li> <li>技術が必要とする教科においては、技能、表現を追加的に総合的に評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生については、全商簿記2級、情報処理3級の取得を最低限の目標に掲げる。</li> <li>2年生は1年次に取得した資格を基礎に上級の資格取得ができるよう授業等で論理的に理解できるように指導する。また、取得できなかった資格を補習等で指導し、再チャレンジさせる。</li> <li>3年生は自ら考え行動できるように課題研究などで自らの方向性を考えさせながら、高度資格取得を目指す環境を整える。</li> </ul>
	○地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元企業のホームページを管理運営しながら随時更新を行い、1年を通して総合的に評価する。</li> <li>生徒が管理、運営するからつ学舎は現在十数社と契約しているが、これを更に増やす。</li> <li>新商品を9月末までに完成させ販売する。</li> <li>今年度より「金融教育研究校」の委嘱を金融広報委員会より受けたので、過去から現在の金融について知識を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大手デパート、百貨店など多くの客が集まる場所での販売、PR活動を増やす。</li> <li>今年度は新商品で全国フードグランプリに出場し、上位入賞を目指す。</li> <li>「金融教育」には外部講師の授けによる講義で多くの知識を吸収し、調べ学習で、知識理解を深めさせる。</li> <li>地元金融機関に出向きインタビューを行う。</li> </ul>
	○地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に有用とされる層の育成。</li> <li>地域と連携を深めた教育活動の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るい笑顔と挨拶による街づくりへの貢献。</li> <li>地元企業のイベントへの参加や販売実習を毎月行う。</li> <li>虹ノ松原清掃活動の実施。</li> </ul>
④キャリア教育で自己や職業理解を進めるとともに、体験的学習で自らの将来を考えさせる。			
教育活動	○キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次のバス研修、企業インタビューや2年次のインターンシップ、進路講演会や企業研究会、3年次の社会人としての心構え講演会などを通して、働く意義や社会貢献など将来の進路設計に必要な知識や技能を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次……バス研修(大学及び企業)</li> <li>2年次……インターンシップ</li> <li>3年次……企業研究会の実施</li> <li>……講義(社会人講師招聘)進路セミナーの実施</li> </ul>
	○進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期離職の防止をはかる。</li> <li>離職した卒業生への就労支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームルーム活動や学年集会を通じて、勤労意欲の醸成につとめる。</li> <li>離職した生徒の情報収集し、就労支援を行う。</li> </ul>
⑤「心の教育」と人権教育・研修を充実させて、いじめと体罰のない学校をつくる。			
教育活動	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーの年間来校予定表を保護者にも配布し相談しやすい環境を作る。</li> <li>教育相談の機会を設定し、職員と生徒の信頼関係と生徒理解を深める。</li> <li>職員研修を実施し、情報提供等を行うとともに、学級経営の支援をしていく。</li> </ul>
	○人権・同和教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権を尊重し、差別を許さない態度を育成する活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権や差別について考えさせる学習や研修を行う。</li> </ul>
	●いじめの問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員や友人と信頼できる関係を作り、安心・安全に学校生活を送る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃より生徒からの小さなサインを見逃さないよう、生徒理解に努める。いじめの防止に重点を置き、早期発見・早期対応に努める。</li> </ul>

⑥韓国麗水情報科学高校と交流し、国際交流教育を進める。						
教育活動	○国際交流	・韓国 麗水情報科学高校との相互交流を深める。	・ハンゲル選択者が韓国語を積極的に使って、交流を進める。 ・受け入れに関しては、特定の生徒だけではなく、学校全体・全校生徒で交流を行う。	① 訪問・受け入れに関して、国際交流委員会を複数回開催する。 ② 交流に関して周到な準備を行い、授業に積極的な態度で参加する。 ③ 受け入れの準備段階で、全体的な交流に関する共通理解をして、各教科個々の役割分担を明確にする。また、ハンゲル選択者が交流相手の支援や案内が出来るように指導する。	A 今年度は、韓国の麗水情報科学高校を7月に訪問。訪問前よりSNSを用いた事前交流を始め、6月には保護者説明会も行った。また、8月にさが総合文化祭のフレ大会として珍島国楽高等学校、10月に姉妹校である麗水情報科学高等学校、11月に原子カマステア高等学校を受け入れ、今年度は4回の国際交流を行った。	来年度も韓国の麗水情報科学高等学校との訪問と受け入れによる国際交流を行う予定である。高校の日程調整に時間がかかると、実施時期は夏以降になると思われるが、年度当初からの計画が必要と思われる。

⑦唐商生としての学びの形(挨拶や態度、言葉遣い、服装)を整え、「唐商生のあり方」を指導する。						
教育活動	○生徒指導	基本的な生活習慣の確立及び規範意識の向上	・基本的な生活習慣を確立させる。 ・交通ルール、マナーを理解させ、交通安全の徹底を図る。 ・服装を正し、髪指導の徹底を図る。 ・情報通信ネットワーク社会の危険性を理解させ、正しい情報モラルを身につけさせる。	・生徒指導部「だより」を活用し、指導の充実及び規範意識向上を図る。 ・登校指導等において、交通ルールと8時30分登校の指導を行う。 ・学年と生徒指導部が連携を図り、身だしなみの指導を行うとともに、HR、授業、部活動など、教育活動全般にわたり注意深く観察し、指導を行う。 ・講演会や行事等を企画し、唐商生としての自覚・意識を高める。	B 「生徒指導部だより」を発行し、生徒指導部の考え方を伝え、生徒への注意喚起の浸透を図った。 ・自転車通学学生に対して、米田ショップ差点から登校坂下までの左側通行の徹底を図り、交通ルールの順守に努めるとともに、関係機関による講演等により、自転車事故の発生を防いだ。 ・頭髮服装指導を月1回の割合で行い、不合格生徒は再指導を行い、生徒の身だしなみに対する意識を高めた。 ・集会時にSNSの正しい利用法等をパワーポイントにより説明し、正しい情報モラルを身に付けさせるとともに危険性についての理解を深めた。	・生徒指導部会を開催し、各学年と生徒指導部についての共通理解を図り、生徒の変化を見逃さないような連絡体制の整備を行っていき、特に気になる生徒については、生徒指導部内で情報共有を行い、問題行動等に発展しないように、先を見据えた指導を行っていき。 ・生徒指導部として、早急に解決すべき課題と時間をかけて取り組む課題をしっかりと把握し、課題解決に努めていく。 ・情報モラルについて、正しい知識の習得に努め、生徒が危険にさらされないよう指導を行っていく。

⑧広報活動に力を入れ、本校の教育活動についての地域の理解を深める。						
特定課題	○広報活動	・本校の魅力や現状を積極的に発信する。	・本校の学校活動への理解を深めてもらえるようなパンフレット作りを目指す。 ・ホームページの掲載内容を充実させる。	・内容を見直し写真の掲載を増やすことで、分かりやすく親しみやすいパンフレット作りを心掛ける。 ・ホームページの更新に努め、より新しく、多くの情報を発信する。	B ・学校パンフレットの写真を増やしたほか、本校生徒の活動事例を増やした。中学生にも大好評であったようである。また、中学校での学校紹介用に動画等を編集し、より具体的に魅力を伝えるように工夫できた。 ・更新が滞りがちになった時があった。	・パンフレットの発行を少し早め、中学生だけでなく、企業へのPRのためにも活用できるようにする。 ・ホームページから新しい情報を発信できるように内容の更新に努める。

⑨指導や取り組みについて全職員の共通理解を図るとともに、各主任の主導で効果的な指導を行う。						
学校運営	○職員の共通理解	・学校教育目標・学校経営ビジョンが全職員に共通理解され、それらに沿った活動を行う。	・主任連絡会を週に1回開く。 ・職員会議等での議論の活発化、意見の集約、反省点及び問題点の改善に取り組む。	・主任連絡会等を通じて、学年団と校務分掌の連携を図る。 ・職員会議の時間短縮と議題の周知のために、会議資料の事前配布を行う。	B ・主任連絡会はほぼ毎週会議を持ち、分掌および学年団との連携を図ることが出来た。昨年度の内容をもとにあらかじめ議題となりうる内容を月ごとに示すことで、各分掌、学年とも早めの準備ができた。	・行事の設定に関する意見の集約が難しい部分があった。毎回翌月分までの行事確認をしているが、月初めに3か月分の行事確認をすることを次年度より取り組みたい。

⑩主権者教育活動に取り組み、主権者として必要な自覚と問題意識を持たせる。						
教育活動	○職員の共通理解	・選挙の実態を理解させ、話し合いを通して自己の意見を構築することによって、主権者としての自覚と問題意識を持たせる。	・選挙に関する基本的知識を身につけさせる。 ・社会的課題を見だし、仲間と共に考えをまとめる姿勢を育てる。 ・「主権者」として、国政に参加する意識を持たせる。	・年間計画に沿って、学年や教科との連携を図り、主権や選挙について時間を設けて扱い、理解を促す。 ・地歴・公民科では、時事問題を取り上げ、現在の社会問題について考えたり、話し合いをする場を設け、「主権者」としての自覚を持たせる。	B ・今年度は、主権者教育公開授業研修会の実施校になったこともあり、ホームページ活動の内容を洗練することができた。 ・地歴・公民科の授業で、現在の社会問題について考え発表する機会を設けることで、課題について主体的に考える態度を育てた。	・授業での主権者教育は、地歴公民科に偏りがちなので、教科の壁を越えて学校全体で主権者教育に取り組む。

⑪業務改善・教職員の働き方改革の推進						
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務改善に取り組み、自発的時間外勤務を削減する。	自発的時間外勤務を20%削減する。	部活動計画により、活動時間や内容について検討を行い削減策を検討する。	B 部活動の実施計画を作成し、事前に休業日等を設定することで、自発的勤務を10%以上削減することができた。	次年度は週休日等の活動時間を減少させることで、さらなる削減を図りたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組					
本年度目標として設定したほとんどの項目について、「概ね達成」することができたものの、「ほぼ達成」した項目の割合が不十分であった。また、教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施については、具体的目標はほぼ達成された反面、生徒の学習用PCの管理不徹底による紛失等、さらに指導の徹底が必要な点があり今後の課題となった。また、教師のICT機器の活用頻度が大きく、それぞれの教員がより効果的な活用ができるように更なる支援が必要である。 次年度に向けて、学校評価を活用し、職員の意識向上を図り、重点目標がさらに高いレベルで達成できるような取り組みを行いたい。					

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目

【資料3 - 1】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立唐津商業高等学校

1 学校関係者評価実施状況

- (1) 学校関係者評価実施日 平成31年3月15日(金)
- (2) 評価者氏名 金嶽栄作氏 進藤紀雄氏 林時男氏
- (3) 資料(評価の参考とした資料)
- 平成30年度学校評価結果・学校評価アンケート
- 平成30年度進路状況・各種表彰・資格取得状況・国際交流資料 他

2 評価

(1) 学校運営について

目標の妥当性及び達成状況

【おおむね達成できている。】

- ・進路指導では、全員の進路が決定した。就職者の3割が事務系の仕事に就いている。進学では、4名が国公立大学に合格、私立4年制大学を含めると進学者の30%程度が4年制大学に進学している。
- ・卒業生の資格取得等の状況でも、全商の6種目合格1名 5種目7名 4種目20名 3種目39名が合格している。
- ・3か年皆勤 41名 1年皆勤 20名 となっている。

学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

【適切に評価されている。】

- ・良好な出席状況が好成績につながっているものと思われる。検定の取得や学習活動に対する姿勢が大変良いと感じる。

改善方策の適切さ

【成果と課題を踏まえて、具体的な改善策が示されている。】

(2) 教育活動について

目標の妥当性及び達成状況

【おおむね達成できている。】

- ・課題をきちんと提出している生徒の割合が、よく当てはまる、やや当てはまるを合わせて約86%となっている。
- ・家庭学習について、同52.3%と学校の課題が垣間見える。学習に意欲的に取り組んでいるは、同81%で高い割合となっている。
- ・朝食の喫食率が91%と保健部の目標である92%は達成できなかったが昨年と比較しても向上している。

学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

【適切に評価されている。】

- ・家庭学習について、課題には取り組んでいることから、自発的な学習の時間が確保できないのではないか。

## 改善方策の適切さ

【成果と課題を踏まえて、具体的な改善策が示されている。】

### 3 その他学校に対する意見や提言

- ・部活動加入100%を目標としているが、部活動の活性化においては弊害となりかねない。再考すべきではないか。
- ・唐津に定着する若者が減少している。地域とのさらなる連携が必要。商業高校において、社会の構造変化に対応しながら、将来地域で起業する人材を育成すべきではないか。また、育成した人材がいったん他県へ就職しても、そこで身に着けたスキルを持って帰って、地元で起業をするような人材を増やしてはどうか。
- ・働き方改革推進する中で、表面的な時間削減となりかねない。かえってオーバーワークを招く可能性もある。メンタル面の注意が必要である。
- ・国際交流は将来的に、アジアからの観光客誘致、地域貢献につながる。今後とも、積極的な交流を推進していただきたい。
- ・近年、犯罪そのものは減少してきているが、人権問題やLGBTなど多様化している。ネットの問題もある。様々な問題に非正規の問題が影を落としているのではないか。キャリア教育を充実させ、早期離職の防止に努めてもらいたい。
- ・定時制進学生徒の教育活動については、従前のように、問題行動等を抱える生徒より、不登校傾向の生徒が増加している。中学校時代に不登校であったり、発達障害を抱える生徒などに学びの場を与えることきる点で貴重である。また、定時制だからこそ、生徒に応じたゆとりある学習環境を提供できる。